

所属分科会	改訂の概要	次期改訂への課題
解剖	<ul style="list-style-type: none"> 野生動物に関連する疾病を新たに 8 語追加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 獣医発生学用語に奇形の項目があるので、その中から疾患名用語に記載できるものを検討(継続)。
病理	<ul style="list-style-type: none"> 会員の意見にそって検討し、改訂作業を行なった。 動物腫瘍の WHO 組織学的分類については、獣医病理学分科会と相談の上、WHO 分類のアップデートがないため改訂しないこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。
寄生虫	<ul style="list-style-type: none"> 獣医寄生虫病学に関する用語について、日本獣医寄生虫学会・教育委員会および理事と意見調整し、改訂作業を行なった。 日本語名、英語名、類語などの用語記載を約 70 修正・追加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語名、英語名を決める際の根拠または助けになるような指針が欲しい。
微生物	<p>以下の方針で修正した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウイルス関連： <p>「... ウイルス病」はすべて「... ウイルス感染症」に変更し、一部の行政名で使われる「... ウイルス病」については類語に記載する。</p> 細菌関連： <p>獣医学会の提案書の記載に基づき、従来の名称に「病」、「症」、「感染症」が混在している疾病について、病原体が特定できる場合は「種名＋症」、複数菌種が含まれる場合は「属名＋症」、伝統的な名称が一般的になっているものはそのままとする。</p> 英語表記名をカタカナに統一。 動物種毎の違いを可能な限り修正。 諸々含めて修正した用語数は、合計 156 語。 新規追加用語 (2)： <p>猫サルコイド、豚皮膚炎腎症症候群</p> 削除用語 (2)： <p>5-12-087 ヘモフィルス・パラスイス感染症、 6-01-065 リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染症</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 魚病関連の用語についての確認が必要。 家禽疾病、公衆衛生、あるいは寄生虫との擦り合わせが必要。 新しい教科書との整合性が必要。例えば、改訂予定「動物の感染症第 5 版 (近代出版)」の細菌・真菌に関しては、 <ol style="list-style-type: none"> 単一種による疾病は属名＋種小名＋症 複数種による疾病は属名＋症 慣用的な疾病名はそのまま使用 監視伝染病の名称はそのまま使用 という方針で記載されており、左記の修正方針とほぼ同じだが、同じく改訂予定「獣医微生物学第 5 版 (文永堂)」では上記の方針とはやや異なる用語が使われている可能性がある。 行政文書等と異なる「... ウイルス感染症」の使用は、今後調整する必要がある。 改訂予定の「獣医師国家試験出題基準」に記載される用語との整合性が必要。

家禽疾病	<ul style="list-style-type: none"> • 家禽疾病に関する一部の用語を修正。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1つの病気に複数の病名がある場合、どの記載を優先すべきか。 • 一部の英名に定まった和訳がない場合の対応方針が必要。
公衆衛生	<ul style="list-style-type: none"> • 特になし。 	<ul style="list-style-type: none"> • 特になし。
獣医繁殖	<ul style="list-style-type: none"> • 前回と同様に用語集の臨床繁殖関連用語（犬・猫、牛、馬、トリ、豚）に絞って改訂した。 • 分科会の会員全員に現行の用語集の臨床繁殖用語抜粋版を送り、変更の必要性について意見を集めた。 • 獣医系大学で教科書として使用されている獣医繁殖学第5版（文永堂出版）、動物臨床繁殖学（朝倉書店）、獣医臨床繁殖学コアカリテキスト（文永堂出版）との用語の統一性を重視した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 特になし。繁殖分科会会員全員から意見を募ることは、教科書レベルと現場レベルにおける用語使用の相互理解が深まると感じた。
臨床・小動物	<ul style="list-style-type: none"> • 前回の課題として記載されていた神経疾患、皮膚疾患についてそれぞれ獣医神経病学会、日本獣医皮膚科学会に改訂作業を依頼した。 • 両学会から回答が得られ、今回大幅な改訂を行った。 • 行動学分野は東京大学武内ゆかり先生に依頼し、確認作業を行った。前回、全面改訂を行っていたため、修正は1か所のみであった。 • 2023年5月までに日本獣医学会HPに寄せられた修正意見を反映した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 奥田が4年間委員を務め、ある程度の改訂作業を行うことが出来た。次期は別の委員による異なる観点からの改訂作業が必要と思われる。 • 意見投稿のあった歯科関係用語は次回の改訂で対応する予定。 • 一部、用語の統一がなされていないとの指摘があった。 ←本件は本改定で対応済み（委員長）

<p>臨床・大動物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 削除が3件。 ・ 2-01-011 牛創傷性心膜炎と2-01-159 創傷性心膜炎を削除し、2-01-019 外傷性心膜炎に類語として加える。 ・ 2-12-154 放線菌性乳房炎を削除。 ・ 新規の追加が4件。 連鎖球菌乳房炎、黄色ブドウ球菌乳房炎、表皮ブドウ球菌乳房炎、酵母様真菌乳房炎（一番後に加筆）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用語選択の基本方針を明確にした方がよい。論文などの報告がない疾患は存在しない、ということにはならないが、なじみのない疾患が多い。①医学・伴侶動物ではあるが、産業動物では知られていない疾患。例：2-01-188 多源性心室期外収縮、2-01-198 洞不全症候群、2-01-231 不整脈原性右室心筋症をはじめとする多様な不整脈とそれに関連する病態。2-01-009 ウォルフ・パーキンソン・ホワイ特症候群をはじめとするカタカナ用語の症候群。2-01-262 リンパ管気腫など。②馬の疾患名は整理が必要？例：3-11-20 擬似指骨瘤などは見たことも聞いたこともない。 ・ 先天性疾患。例：2-01-260 両大血管右室起始の記載はあるが、左からの奇形「両大血管左室起始」がない。実際に経験があるので、「カラーアトラス牛の先天異常」浜名・学窓社2007、に掲載のある疾患名は網羅してほしい。 ・ 山羊・綿羊の疾患名の充実と整理：ほとんどが感染症。妊娠中毒などを、疾患No. (2桁目の数字)を増やした上で、掲載できる。
<p>生理・生化学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。
<p>日本獣医薬理学・毒性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コアカリ準拠の共通教科書「獣医薬理学」と「獣医毒性学」の改定版については第7回に修正作業を完了していたので、今回は「獣医臨床薬理学」に記載されている疾患名用語が用語集に対応していることを確認した。 ・ 用語集に収載されていない用語(3)と類語(2)を追加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コアカリに準拠した教科書3冊に加えて、「薬理学・毒性学実験」改訂版についても用語集との対応を図っていきたい。
<p>実験動物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ マウス・ラットにおける実験的疾患誘導モデルとして、自己免疫・アレルギー疾患(12疾患)、糖尿病・肥満(7疾患)、腎・消化器疾患(16疾患)、精神・神経変性疾患(7疾患)、循環器疾患(5疾患)、がん・血液疾患(8疾患)、運動器疾患(4疾患)を 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マウス・ラットの実験的疾患誘導モデルの内容を充実させる。 ・ マウス・ラットの感染症、実験的疾患誘導モデル以外の疾患(分類なし)の内容を充実させる。

	<p>新規に追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> マウス・ラット、サルの感染症の疾患名が、同じ病原体によって発症するヒト疾患の名称になっているものが多数あったので、これらを修正した。 	
野生動物	<ul style="list-style-type: none"> 「コアカリ野生動物学」の第2版が発行されたことに伴い、今回の改定では「コアカリ野生動物学第2版」の「第6章野生動物の疾病」に記載された疾患名について確認を行った。「コアカリ野生動物学第2版」に記載されていて、前回のリストに記載されていなかった9語を新たに追加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能であれば、他の章に記載されている疾患名の確認も順次進め、リストの更新を進めていけるとよいと考えます。
疫学	<p>魚病名について以下の点を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝染性疾患の名称に関する基本方針に従い変更（「ウイルス名+病」→「ウイルス名+感染症」。「細菌名+病」→「細菌名+症」）。 リンホシスチス症（ウイルス感染症）は慣用名とし、変更しなかった。 病名の類語を備考欄に記載。 病原体名が含まれない（伝染性疾患と判別し辛い）疾患名は、備考欄に原因微生物を記載。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
全体を通して （本委員会委員長）	<ul style="list-style-type: none"> 動物の種類名としての「トリ」を「鳥」に変更した。 実験動物学会の提案に賛同し、「実験的疾患誘導モデル」に関する用語を収録した。これにより、動物種類6（マウス・ラット）の疾患No.が大幅に増加した。 「野生動物・その他」に収録される用語が増えたので、「感染症」と「その他」に分けた。また、複数の動物の感染症名には、動物種名を付さず、「類語」の項目にそれぞれの動物種を示すように変更した。このルール変更に伴い、既に登録されている疾患名も新ルールで配置し直した。 2024年までにユーザーから頂いた御意見を、各分科会に精査いただき、可能な限り反映させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2025年1月以降、ユーザーから頂いた御意見は次回検討。 感染症の用語について、微生物分科会では記載の通り、指針を定めて統一を図った。次回の改定では、寄生虫、公衆衛生、家禽、実験動物などの分科会との調和を考慮する必要がある。